

## 3月22日のウクライナ情報

安齋育郎

### (1) マリンカ地区、18人のグループが組織的に投降した(2024年3月19日)

交戦中のロシア軍の砲撃で、彼らは捕虜になった方が安全だと悟った。興味深いことに、全員が交換を拒否している。

<https://twitter.com/i/status/1770003554813780255>



<https://twitter.com/Z58633894/status/1770003554813780255?s=09>

### (2) 米ホワイトハウス高官、プーチン氏をロシアの正当な大統領と認める(2024年3月19日)

民主主義の基準を満たしていなかったという事実を変えるものではない」

- ◆ 補佐官はこのように発言し、選挙後に米国政府がロシア指導者の正当性を否定する可能性についての邪推に終止符を打った。
- ◆ 先にロシア大統領府のペスコフ報道官はロシア大統領選が公正ではなかったとする米国の評価について言及し、これは #ウクライナ 紛争に関与する国家としては予想される意見であると評価した。そのうえで、これはロシアが耳を傾けるような意見ではないと一蹴した。



[https://twitter.com/sputnik\\_jp/status/1769876888145821961?s=09](https://twitter.com/sputnik_jp/status/1769876888145821961?s=09)

### (3) 徴兵を逃れるウクライナの男たち(BBC, 2024年3月20日)

<https://youtu.be/jZlhODsqZU8>

※安齋注:この動画には“Ukraine’s Draft Doggers”という題がつけられています。Draft の意味は「下書き」「ドラフト・ビール(熱処理をしていないビール)」「(野球の)ドラフト制度」など15ぐらいありますが、この場合は「召集」「徴兵」の意味ですね。Doggers の dogge(ドッジ)は「[一撃を身をかわして]素早くよける」という意味と、「[嫌なことを]巧妙に避ける[逃れる]」という意味がありますが、この場合は後者です。「ドッジ・ボール」のドッジは前者の意味ですね。字幕は英語です。



<https://www.youtube.com/watch?v=jZlhODsqZU8>

#### (4)「ロシア人はプーチン氏守った」 鈴木宗男氏、タス通信にコメント(JIJI.COM, 2024年3月19日)

ロシア国営タス通信は19日、プーチン大統領が通算5選を決めた大統領選に関する鈴木宗男参院議員のコメントを伝えた。鈴木氏は「史上最高の得票率での圧倒的勝利は、プーチン氏の手腕と能力が評価された結果だ」と指摘。西側メディアが反体制派指導者アレクセイ・ナワリヌイ氏の獄死に関連してロシアに対する批判を強めたことによって、ロシア国民が「プーチン氏を守りたい」という思いを強めたと分析した。



<https://www.jiji.com/jc/article?k=2024031901243&g=int&s=09>

## (5)これがキエフの地下鉄の現状です(2024年3月20日)

TCC(ウクライナ領土新兵募集センター)の「命キャッチャー」がどの列車も喜んで迎えてくれます。  
今では女性と老人と子供だけがそこに行くのは不思議なことではありませんか？

<https://twitter.com/i/status/1770251096705187953>



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1770251096705187953?s=09>

## (6)ザポロジエ原発のロシア管轄への復帰から2年経過したことについて、ロシア外務省の声明(2024年3月20日)

特別軍事作戦を実施する中で、2022年3月にロシア軍はザポロジエ原発を警備下に配した。2022年9月末に実施された住民投票の結果、ドネツク人民共和国、ルガンスク人民共和国、ヘルソン州、ザポロジエ州は、新たな構成主体としてロシア連邦の構成下に入った。2022年10月5日には、ロシア連邦大統領令第711号『ザポロジエ州における原子力利用領域の法規制の特殊性について』が署名され、原発の操業を保証する『ザポロジエ原発運転機関』が設立された。

ザポロジエ原発がロシアの『原子力ファミリー』に復帰した直後から、キエフ当局は、この原発の安全と効率的操業を絶えず脅かし続けてきた。キエフはザポロジエ原発とその衛星都市であるエネルゴダル市に対する挑発行為を行うだけでなく、原発職員とその家族に対しても継続的にテロ行為を行っている。

☠️ ザポロジエ原発が戦闘接触線にきわめて隣接して位置していることをふまえ、ロシアはIAEA事務局の専門家を原発へと招いた。2022年9月1日、第1グループがザポロジエ原発に到着した。彼らの主たる使命は、原発の安全に対するキエフ政権による脅威を予防することにあった。

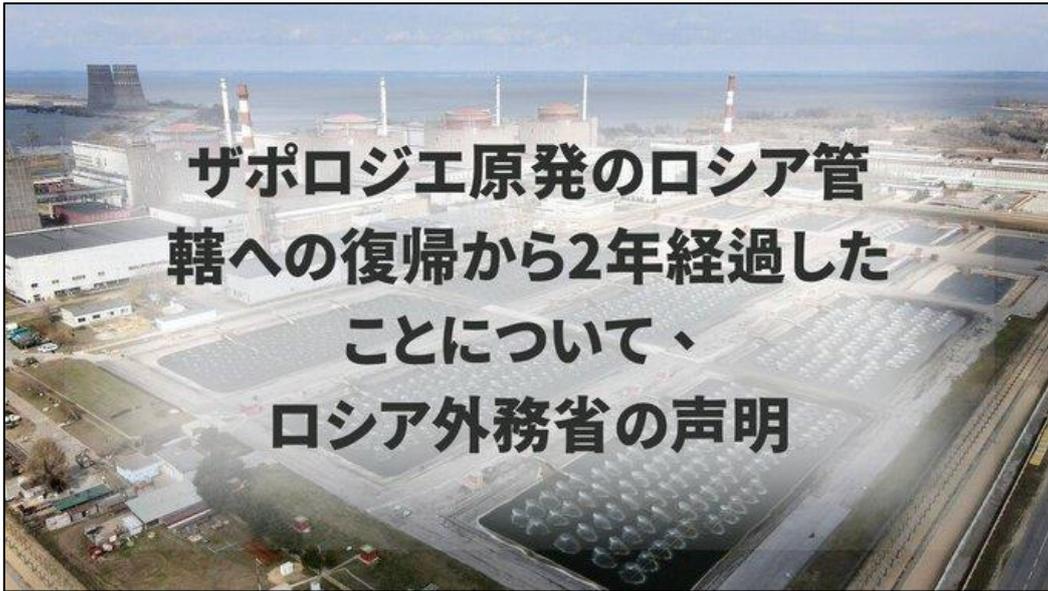
IAEAのグロッシ事務局長は2022年3月以降、ロシアを12回訪れている。そのうち4回は、我々の招待でザポロジエ原発を訪問している。グロッシ事務局長にはとりわけ感謝申し上げたい。

❗️ ロシアはあらゆる手段を講じて、国内法および我が国が締約国である国際法上の関連文書が定める義務に従い、原発の防護体制への信頼性を高め、その核安全性および物理的核安全性を強化するよう努めている。

👉 我々は、ザポロジエ原発のウクライナへの『返還』や同原発の国際管理化を求める決議、および政府関係者や国際機関の発言を、ロシアの主権と領土的一体性を侵害する試みであると考えている。この点

を強調しておきたい。

現状況下、我々はザポロジエ原発とエネルゴダル市の防護を強化して、キエフ当局と『西側集団』に代表されるそのスポンサーに破壊の機会を与えないように今後も努めていく。



<https://twitter.com/Z58633894/status/1770271616955740197?s=09>

### **(7)「より多くの人間を戦場へ」米グラム議員が呼びかけ ウクライナ国民は全員、戦線へ(2024年3月20日)**

米共和党のリンゼー・グラム上院議員(ロシア連邦のテロリスト及び急進主義者一覧に掲載)は 3 月 18 日、ウクライナ国民の動員を年齢に関係なく行う必要性と、クリミア大橋の攻撃用の長距離ミサイル供給の重要性を述べた。ワシントンポスト紙が報じた。

グラム議員は、ウクライナの動員年齢が現在、27 歳からであり、それより若いウクライナ人には前線で戦う必要がないことが根本的に間違いとの見方を示している。

「軍役に付ける状態にある者はウクライナ軍に入隊すると願いたい。入隊が 27 歳からというのは信じがたい。25 歳からとか、27 歳からとかではなく、あなたたちは軍役に就かねばならないのだ」

グラム議員は、キエフ政権には「戦場にはより多くの人間が必要」であり、入隊する、しないの決定は米国が支援するか否かに左右されるべきものではないと指摘している。

「我々(編集:米国)が何をすることが重要ではなく、あなた方が戦い続けることが重要なのだ」

ワシントンポスト紙によれば、グラム議員はまた、ウクライナには特にクリミア大橋を攻撃するために、とうの昔に、長距離用ミサイル ATACMS が供給されるべきだったとも述べている。

グラム議員は数々の問題発言で有名。2023 年 5 月、ゼレンスキー政権が公開したゼレンスキー大統領とグラム議員の会談を映した動画では、グラム氏は、ロシア人の死こそが米国の資金の「最良の使われ方」と発言していた。これを受けて、ロシア内務省はグラム容疑者の指名手配を開始。また、先月 2024 年 2 月にはグラム議員はウクライナに新たな軍事支援供給を行い、ロシアをテロ支援国リストに加え、NATO 拡大でロシアを脅した。ロシア連邦金融モニタリング庁は同じく 2 月、グラム氏を急進主義者およびテロリスト一覧に加えている。



[https://twitter.com/sputnik\\_jp/status/1770110535318561022?s=09](https://twitter.com/sputnik_jp/status/1770110535318561022?s=09)

## (8)ウクライナ停戦を早くやろうと一番言っているのはプーチン大統領＝東郷和彦氏 (2024年3月19日)

元外交官で評論家、政治学者の #東郷和彦 氏がスプートニクのインタビューに応じ、ロシアの #プーチン 大統領の再選を受けた国際関係への影響、ウクライナ紛争終結に向け日本が果たすべき役割について語った。

### ◆ ロシア大統領選結果の受け止め

投票率が 77.4%、得票率 87.9%で、圧倒的にプーチンの勝利という結果になっています。戦争を支持している候補者だけに絞って、ある種コントロールされた選挙になっていたため、この結果は予期されていました。戦争をやっている最中ですからね。この戦争をプーチン大統領の下での秩序のもとに遂行し、この先に持つていくためには、予想された結果だと私は素直に受け止めています。

### ◆ ロシアの国内政治に及ぼす影響

当然、プーチンは今までの政策を続けると思います。最大の問題点は、ウクライナ戦争をどうするかで、基本的には今までの政策を続けて、ロシアの国益に合致した形に持つていくということだと思います。

でも、ちょっと気になる点もあります。今度の選挙で戦争に反対する候補は 1 人も出られないような形にセットされたわけですね。ノーベル平和賞をとったメモリアルの人とか。それからカガルリツキーという人は、有罪判決の後釈放されたのをもう一回逮捕されて 5 年の実刑を受けたと。この人を「ここまでやる必要はないんじゃないか」という声が、RT のシモニャンさんのように完全にプーチン支持の人たちからも出ています。そういう声がロシア国内にあるということは、プーチンが今後の政策を進める上で、やはりテイクイントゥアカウンタ(考慮)した方がいいことなんじゃないかなと思います。

ただ、今の状況を見ると、プーチンは 2 月のタッカー・カールソンのインタビューの時も、「もう停戦

をしなくちゃいけない、それで交渉をしよう」ということを物凄く強く言ったんですよね。重要な鍵として、2022年3月のイスタンブール合意に戻ろうじゃないかというメッセージを非常に強く出していた。それから、この選挙直前のキセリョフのインタビューでも、全く同じこと言ってます。もう停戦に入るべきだと、交渉すべきだと。そのヒントはイスタンブール合意にあるということも。

そういう状況の中で、ローマ法王が「白旗を上げる勇気を持たなくちゃいけない」と言った。つまり、停戦のための努力をすべきだと言ってるわけですよ。私の見るところ、今ウクライナ戦争を巡って一番停戦を早くやろうと言ってるのはプーチンなんですよね。私はこれは非常に重要なメッセージだと思います。

個人的意見としては、一刻も早く停戦を実現するためにどうしたらいいかを考える時期で、皆がそのために力を合わせるべきだと。カールソンとのインタビュー、キセリョフとのインタビュー、それからローマ法王のメッセージ、全て同じ方向を指してるんですよ。

もちろん基本的な政策には、ウクライナ戦争の戦場で勝つというのが当然入るわけですが、一方でプーチンが只今現在までは強調してきた「一刻も早く停戦に行くべきだ」という政策は是非続けてほしいというのが、選挙に勝ったプーチンに対する私のお願いと言いますかね。少なくともプーチンサイドはそういう姿勢だということを歴史の中で皆が覚えておくべきというのが僕の意見ですね。

#### ◆ ロシアと他国の関係に与える影響

プーチンの発言に対して逆にバイデンの方は、要するに「プーチンというのは信用できない」「プーチンは悪い奴だ」という趣旨のことを、一般教書演説でも言っています。それから、今ヨーロッパの戦争の状況がロシアに有利になってきているのは明らかですから、例えばマクロンが2月末に「あらゆる可能性を考えるべきだ(編注:ウクライナ派兵発言)」ということを書いて、ゼレンスキーもちろんウクライナの国土からロシア軍を全部追い出すまで戦うんだと言ってるわけですよ。この立場をバイデンが支持し、マクロンがそれに火を点けるように「あらゆる可能性を考えるべき」と言っている。

私はこの西側の多数正当説、つまりバイデンやマクロンのような人たちの今のアプローチは非常に危険だと思っているんですよ。だから、「一刻も早く停戦のための交渉をやろうじゃないか」という意見をプーチンが言い続けることによって、いわゆる西側の人たちの立場を変えていくことができればいいなというのが私の意見ですね。

長い目で見た時に、戦争が終わった後にどういう世界を作るかを考えなくてはいけない時期に来ていると思います。プーチンは今の西側との関係では、もうヨーロッパの外の世界、つまりG20やBRICS、上海協力機構などにグローバルサウスの支持者を集めていくという政策をとっています。これはこれでいいと私は思うんです。だけれど、やはり長い目で見て、ロシアのいないヨーロッパというのはあり得ないんですよ。だから、一刻も早く戦争をやめることによって、できるだけ早くロシアがもう一度ヨーロッパの中にちゃんと戻ってくるような、そういうことを考える時期に来ていると思います。今すぐは無理だとは思いますが。

#### ◆ 日本はどのような戦略をとるべきか

私が今言ったようなことを日本のリーダーが考えて、バイデンとゼレンスキーに「一刻も早く停戦というラインに入る政策をとろうじゃないか」「そのほうがバイデンのためにも、ゼレンスキーのために結局一番いい結果になる」と日本が言うというのが最良の政策だと思うんですね。

今の時点でも日本の対ウクライナ支援というのは、「人を殺す武器」は提供してないわけですよ。こ

これは私は本当に大事なことだと考えます。それに加えて一刻も早い停戦を「プーチンだけじゃなくてあなたたちも考えてください」とバイデンやゼレンスキー、マクロンに言う勇気をもし日本が持つことができれば、ウクライナ戦争を一刻も早く終わらせる方向に向かって、日本はとても重要な貢献をすることになると思います。

戦争を早く終わらせるべきだということは、中国も全く同じことを言ってるわけですよね。だから、そういう国と力を合わせて、世界の世論を少しそちらの方向に変えていくと。そのための努力をするのが日本外交に最も期待されることです。

今の日露関係は、全くの0ではないかもしれないけども、ほとんど何も残っていないぐらい悪い。けども、そこから一刻も早く抜け出すためには、日本もちゃんと正しい方向で汗をかかなくちゃいけないわけで、僕は今述べたような方向が一番いいと考えます。



[https://twitter.com/sputnik\\_jp/status/1770034678420078875?s=09](https://twitter.com/sputnik_jp/status/1770034678420078875?s=09)

### (9)鳩山由紀夫元首相の見解(2024年3月18日)

北極圏刑務所で獄死したナワルヌイ氏について、バイデン大統領は「死の責任はプーチンにある」と述べ、多くの日本人も殺されたと信じている。ところがロシアと戦っているウクライナの国防省情報総局長が「彼は血栓で死亡。自然死だ」と述べた。敵が不利な嘘をつくはずも無いので、事実なのだろう。

<https://twitter.com/hatoyamayukio/status/1769639209319440397?s=09>

### (10)フランス軍は東へ進軍する準備が整っている(2024年3月19日)

対外情報庁長官 セルゲイ・ナリシキン

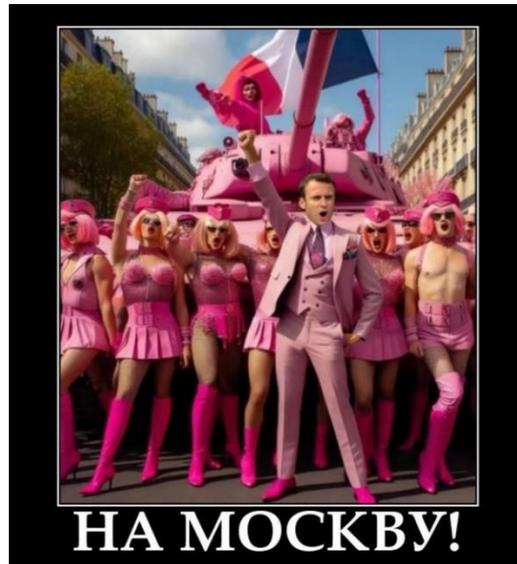
フランスの現指導部は、一般フランス人の死や将軍たちの懸念など気にも留めていない。ロシア対外情報庁が入手したデータによると、ウクライナに派遣する部隊はすでに準備されている。初期段階では約2000人。

フランス軍は、そのような重要な部隊がウクライナに静かに移送され、駐屯することができなくなることを恐れている。したがって、ロシア軍による攻撃の優先的な合法的標的になる。

つまり、剣を携えてロシア世界の領土にやってきたすべてのフランス人の運命が彼を待ち受けているということだ。パリでは、死傷者の数だけでなく、フランス軍がウクライナに関与しているという事

実そのものを注意深く隠している。

このため、関係機関は現実的な問題の解決を急いでいる。死者を埋葬し、遺族に補償金を支払い、障害者に年金を支払わなければならない。死者は埋葬され、遺族には補償金が支払われ、障害者には年金が支給されなければならない。これらすべてには適切な書類が必要であり、さらに「死の二重計上」は、不満を抱く親族からの訴訟をはらんでいる。



<https://twitter.com/Z58633894/status/1770100799202607212?s=09>

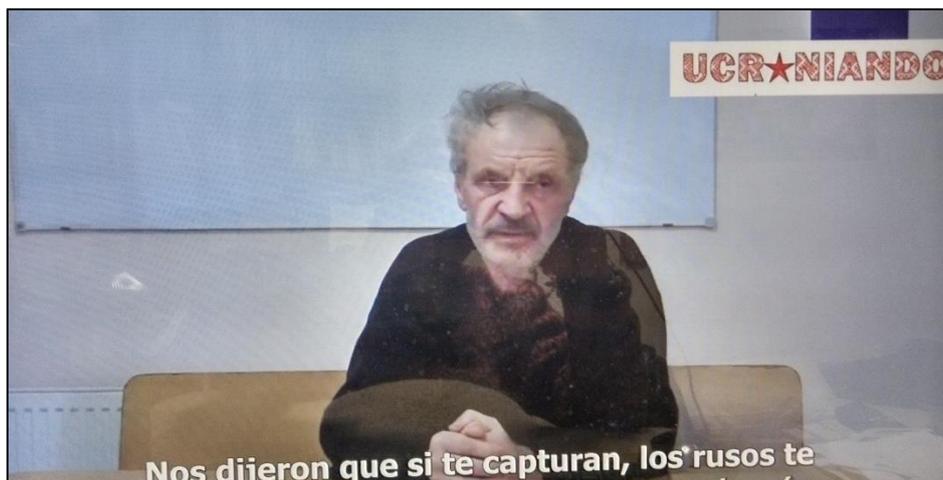
### (11)【捕虜になったウク兵の話】(2024年3月20日)

もし捕まったら、ロシア人たちに指とか腕とか、何だか知らんけどいろいろ切り落とされるぞ、と言われていた。

だが、そんなことは全くない。栄養をつけてくれる、喰わせてくれる、タバコもくれる。

待遇いいし、何も悪いことは起きない。

<https://twitter.com/i/status/1770213689670709534>



<https://twitter.com/Kumi japonesa/status/1770213689670709534>